

## 第5章 簿記一巡

### 設例 1

問屋を営むF商店の第1期における以下の取引について、仕訳と各勘定口座への記入を行いなさい。また、必要な決算整理仕訳を行った上で、精算表、及び財務諸表を作成しなさい。

なお、F商店は12/31を決算日としており、使用する勘定科目は、次の通りである。

現金、繰越商品、資本金、売上、仕入

### 1. 仕訳と勘定記入

- (1) 4/1に、現金 200,000円を元入れして営業を開始した。

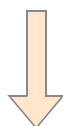
(借方)	(貸方)
------	------

- (2) 5/10に、商品を @100円/個で 500個を仕入れ、代金 50,000円を現金で支払った。

(借方)	(貸方)
------	------

- (3) 9/22に、商品を @200円/個で 300個を販売し、代金 60,000円を現金で受け取った。

(借方)	(貸方)
------	------



仕訳の貸借の関係をそのまま各勘定口座に移行する。

#### 現金

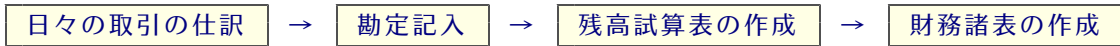

#### 資本金


#### 売上

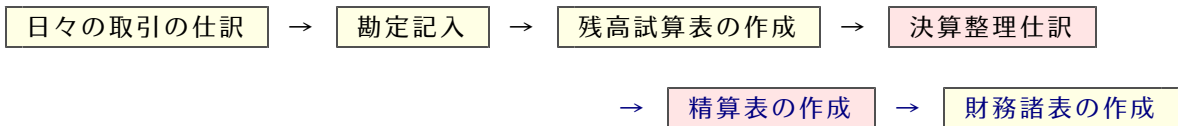

#### 仕入


## 2. 財務諸表の作成

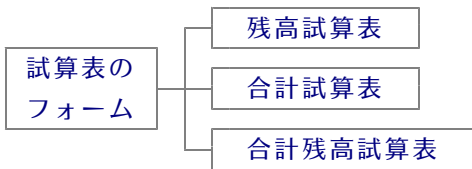
第1章では、次のような流れで財務諸表を作成し、適正な期間損益及び財政状態を把握することができました。



しかし、期末商品がある場合には、決算時に「決算整理仕訳」を行うことになります。この場合、簿記一巡の手続きは以下のようになります。



### 2-1 試算表の作成



既に、第1章P10で、合計試算表と残高試算表を作成しています。本章では、合計残高試算表を作成します。

総勘定元帳

<p style="text-align: center; margin: 0;"><b>現金</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">4/1 200,000</td><td style="width: 50%;">5/10 50,000</td></tr> <tr><td>9/22 60,000</td><td></td></tr> </table>	4/1 200,000	5/10 50,000	9/22 60,000		<p style="text-align: center; margin: 0;"><b>資本金</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">4/1 200,000</td><td style="width: 50%;"></td></tr> </table>	4/1 200,000	
4/1 200,000	5/10 50,000						
9/22 60,000							
4/1 200,000							
<p style="text-align: center; margin: 0;"><b>仕入</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">5/10 50,000</td><td style="width: 50%;"></td></tr> </table>	5/10 50,000		<p style="text-align: center; margin: 0;"><b>売上</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%;">9/22 60,000</td><td style="width: 50%;"></td></tr> </table>	9/22 60,000			
5/10 50,000							
9/22 60,000							

- ① 各勘定の貸借にある金額の合計を、そのまま試算表の「借方合計」、「貸方合計」に移す。
- ② 各勘定の「借方合計」と「貸方合計」を相殺し、純額を「借方残高」又は「貸方残高」に記入する。

**合計残高試算表**

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
		現金		
		資本金		
		売上		
		仕入		

↑ 一致 ↓

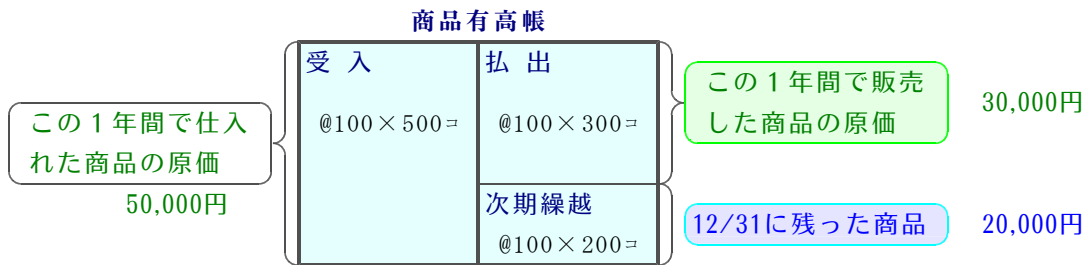
↑ 一致 ↓

2-2 決算整理仕訳 重要

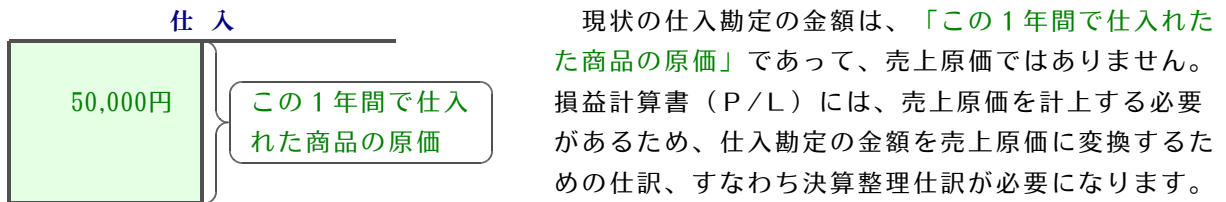
(1) 商品有高帳を利用した売上原価と期末商品の把握

商品有高帳

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4 1	前期繰越	0		0				0		0
5 10	仕 入	500	100	50,000				500	100	50,000
9 22	売 上				300	100	30,000	200	100	20,000
12 31	次期繰越				200	100	20,000			
	〃	500		50,000	500		50,000			
1 1	前期繰越	200	100	20,000				200	100	20,000



(2) 決算整理仕訳の必要性

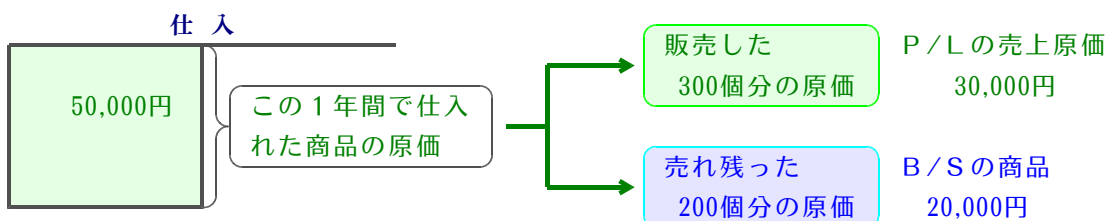


このように、主に適正な期間損益計算を目的として、決算期末に行われる仕訳を決算整理仕訳といいます。

(3) 決算整理仕訳

仕入勘定の金額 50,000円を売上原価の金額 30,000円に変換するには、仕入勘定から期末商品（＝繰越商品）の原価 20,000円を控除するような仕訳を行えばよい。

(借方) 繰越商品	20,000	(貸方) 仕 入	20,000
-----------	--------	----------	--------



2-3 精算表の作成

決算整理仕訳を行う場合の財務諸表作成までのプロセスは、一般的に、次のようになります。

このプロセスは、「精算表」を利用します。



精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	210,000							
繰越商品								
資本金		200,000						
売上		60,000						
仕入	50,000							
	260,000	260,000						
当期純利益								
			20,000	20,000	60,000	60,000	230,000	230,000

2-4 財務諸表の作成

損 益 計 算 書

自 20X7年1月1日 至 20X7年12月31日

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価		売上	
当期純利益			

貸 借 対 照 表

20X7年12月31日現在

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金		資本金	
商品		当期純利益	



P/Lに計上される「売上原価」は、「仕入れたものの原価」じゃなくて、「売れたものの原価」なんだなぁ。

## 2-5 会社経営と個人経営の財務諸表（1年目）

## (1) 会社経営の場合

## 損益計算書

自 20X7年1月1日 至 20X7年12月31日

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	30,000	売上	60,000
当期純利益	30,000		
	60,000		60,000

## 貸借対照表

20X7年12月31日現在

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	210,000	資本金	200,000
商品	20,000	繰越利益剰余金	30,000
	230,000		230,000

損益計算書は、この1会計期間に新たに発生した費用と収益を計上して、新たに生まれた利益を計算し、それを示す計算書です。これに対し、貸借対照表は、期末時点にプールされている資産、負債、純資産を示す一覧表です。従って、貸借対照表は、「当期純利益」とするのではなく、これまでの当期純利益の累積値を意味する「繰越利益剰余金」と表示します。

## (2) 個人経営の場合（参考）

## 損益計算書

自 20X7年1月1日 至 20X7年12月31日

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	30,000	売上	60,000
当期純利益	30,000		
	60,000		60,000

## 貸借対照表

20X7年12月31日現在

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	210,000	資本金	230,000
商品	20,000		
	230,000		230,000

個人経営の場合であっても、利益の累積値を会社経営と同じく「繰越利益剰余金」とすることもありますが、一般的には、「資本金（元入れ）」とすることが多いようです。

2-6 会社経営と個人経営の財務諸表（2年目以降）

(1) 会社経営の場合

2年目以降も、毎年30千円の利益を計上すると仮定した場合

1年目		2年目		3年目		4年目		
P/L		P/L		P/L		P/L		
費用	収益	費用	収益	費用	収益	費用	収益	. . .
30	60	30	60	30	60	30	60	
利益		利益		利益		利益		
30		30		30		30		
B/S		B/S		B/S		B/S		
資産	資本金	資産	資本金	資産	資本金	資産	資本金	. . .
230	200	260	200	290	200	320	200	
	繰上		繰上		繰上		繰上	
	30		60		90		120	

繰上利益は、利益の累積値なので、毎年、30千円ずつ増加します。

繰上利益の正式名称は、「繰上利益剰余金」です。

(2) 個人経営の場合（参考）

2年目以降も、毎年30千円の利益を計上すると仮定した場合

1年目		2年目		3年目		4年目		
P/L		P/L		P/L		P/L		
費用	収益	費用	収益	費用	収益	費用	収益	. . .
30	60	30	60	30	60	30	60	
利益		利益		利益		利益		
30		30		30		30		
B/S		B/S		B/S		B/S		
資産	資本金	資産	資本金	資産	資本金	資産	資本金	. . .
230	230	260	260	290	290	320	320	

個人経営の場合は、年々の利益を資本金に繰り入れます。従って、毎年、資本金が30千円ずつ増加します。

### 3. 勘定口座の締切り

#### 3-1 収益・費用の各勘定口座の締切り

まず、決算整理仕訳を転記し、各勘定口座の金額を「損益勘定」に振り替えます。その後で、各勘定口座を締切ります。

仕入				売上			
5/10 現金	50,000	12/31 繰越商品	20,000	12/31 損益	60,000	9/22 現金	60,000
		12/31 損益	30,000		60,000		
	50,000		50,000				60,000
損益							
12/31 仕入 30,000				12/31 売上 60,000			

(決算振替仕訳)

--	--	--	--

(決算振替仕訳)

--	--	--	--

#### 3-2 損益勘定と繰越利益剰余金勘定の締切り

損益勘定の貸借差額は、当期純利益（又は当期純損失）です。その金額だけ純資産が増加（又は減少）したことになります。そこで、損益勘定の貸借差額を純資産の部に表示される「繰越利益剰余金」勘定に振り替え、その後で両勘定を締切ります。

損益				繰越利益剰余金			
12/31 仕入	30,000	12/31 売上	60,000	12/31 次期繰越	30,000	12/31 損益	30,000
12/31 繰越利益剰余金	30,000				30,000		30,000
	60,000		60,000				

(決算振替仕訳)

--	--	--	--

#### 3-3 資産・負債の各勘定口座の締切り

まず、決算整理仕訳を転記した上で、各勘定口座を締切ります。

現金				繰越商品			
4/1 資本金	200,000	5/10 仕入	50,000	12/31 仕入	20,000	12/31 次期繰越	20,000
9/22 売上	60,000	12/31 次期繰越	210,000		20,000		20,000
	260,000		260,000				

資産・負債・純資産の各勘定の「次期繰越」の金額を集計して、「繰越試算表」を作成します。

繰越試算表

借方	勘定科目	貸方
	現金	
	繰越商品	
	資本金	
	繰越利益剰余金	

設例 2

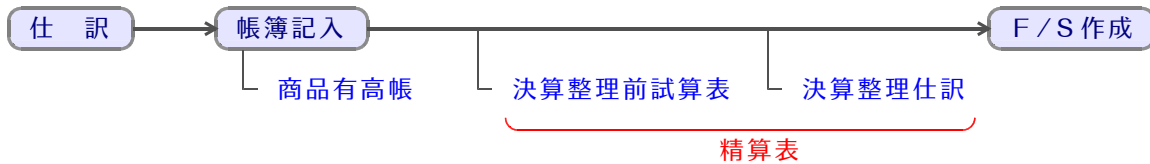
問屋を営むF商店の第2期における以下の取引について、仕訳と各勘定口座への記入を行いなさい。また、下記の期首貸借対照表も参考にして、必要な決算整理仕訳を行った上で、精算表、及び財務諸表を作成しなさい。なお、棚卸資産の払出仮定は先入先出法によるものとし、使用する勘定科目は、次の通りである。

現金、当座預金、売掛金、繰越商品、備品、売上、仕入、減価償却費、備品減価償却累計額

期首貸借対照表

借方	勘定科目	貸方
210,000	現金	
20,000	商品	
	資本金	230,000
230,000		230,000

本問における簿記一巡



1. 仕訳と勘定記入

(1) 1/9に、現金 150,000円を当座預金口座に預け入れた。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

(2) 3/9に、商品を @110円/個で 600個を仕入れ、代金を小切手を振り出して支払った。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

(3) 5/3に、商品を @200円/個で 500個を販売し、代金を小切手で受け取った。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

(4) 7/6に、商品を @200円/個で 100個を販売し、代金を当店振出の小切手で受け取った。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

(5) 8/10に、備品を購入し、代金 100,000円は小切手を振り出し、引取運賃 8,000円は現金で支払った。当該備品は、耐用年数 6年、残存価額ゼロとして定額法による償却計算を行う。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--

(6) 10/22に、商品を @200円/個で 100個を販売し、代金は掛けとした。

(借方)		(貸方)	
------	--	------	--



1/1 前期繰越	210,000	1/9 当座預金	150,000
5/3 売上	100,000	8/10 備品	8,000

1/9 現金	150,000	3/9 仕入	66,000
7/6 売上	20,000	8/10 備品	100,000

10/22 売上	20,000
----------	--------

1/1 前期繰越	20,000
----------	--------

8/10 諸口	108,000
---------	---------

1/1 前期繰越	200,000
----------	---------

8/10 当座預金	100,000
〃 現金	8,000

1/1 前期繰越	30,000
----------	--------

8/10 備品	108,000	当座預金	100,000
		現金	8,000

5/3 現金	100,000
7/6 当座預金	20,000
10/22 売掛金	20,000

3/9 当座預金	66,000
----------	--------


## 2. 財務諸表の作成

### 2-1 合計残高試算表の作成

- ① 各勘定の貸借にある金額の合計を、そのまま試算表の「借方合計」、「貸方合計」に移す。
- ② 各勘定の「借方合計」と「貸方合計」を相殺し、純額を「借方残高」又は「貸方残高」に記入する。

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
152,000	310,000	現金	158,000	
4,000	170,000	当座預金	166,000	
20,000	20,000	売掛金		
20,000	20,000	繰越商品		
108,000	108,000	備品		
		資本金	200,000	200,000
		繰越利益剰余金	30,000	30,000
		売上	140,000	140,000
66,000	66,000	仕入		
370,000	694,000		694,000	370,000

一致  
一致



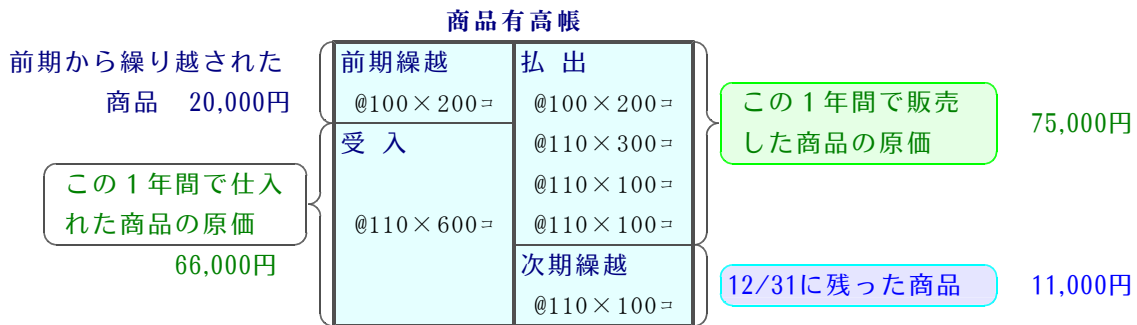
2-2 決算整理仕訳 重要

(1) 商品有高帳を利用した売上原価と期末商品の把握

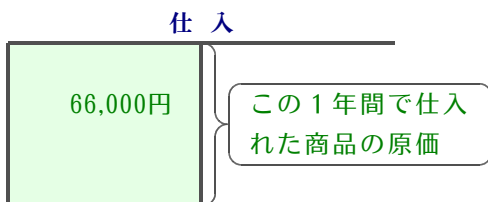
(先入先出法)

商品有高帳

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1 1	前期繰越	200	100	20,000				200	100	20,000
3 9	仕 入	600	110	66,000				200	100	20,000
								600	110	66,000
5 3	売 上				200	100	20,000			
					300	110	33,000	300	110	33,000
7 6	売 上				100	110	11,000	200	110	22,000
10 22	売 上				100	110	11,000	100	110	11,000
12 31	次期繰越				100	110	11,000			
"		800		86,000	800		86,000			
1 1	前期繰越	100	110	11,000				100	110	11,000



(2) 決算整理仕訳の必要性



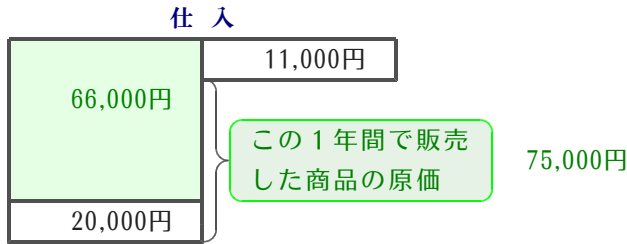
現状の仕入勘定の金額は、「この1年間で仕入れた商品の原価」であって、売上原価ではありません。損益計算書（P/L）には、売上原価を計上する必要があるため、仕入勘定の金額を売上原価に変換するための仕訳、すなわち決算整理仕訳が必要になります。



(3) 決算整理仕訳

仕入勘定の金額 66,000円を売上原価の金額 75,000円に変換するには、仕入勘定の金額に前期から繰り越されてきた商品の原価 20,000円を加え、期末商品の原価 11,000円を控除するような仕訳を行えばよい。

(借方)		(貸方)	
(借方)		(貸方)	



3級の精算表作成問題では、必ず出題される論点よ。



また、有形固定資産について、適正な期間損益計算を行う目的で減価償却費を計上することを既に、学習しましたが、その減価償却費の計上も決算整理仕訳として行うことになっています。(ただし、期中売却資産の期首から売却時までの減価償却費の計上は売却時の仕訳で行います。)

減価償却費の計算は、特に指示のない限り、月割り計算で行います。本問の備品は 8/10に購入しているため、8/10~12/31までの5ヶ月分の減価償却費を計上します。

$$\text{減価償却費} = 108,000円 \div 6年 \times \frac{5ヶ月}{12ヶ月} = 7,500円$$

(借方) 減価償却費	7,500	(貸方) 備品減価償却累計額	7,500
------------	-------	----------------	-------

2-3 精算表の作成

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	152,000						152,000	
当座預金	4,000						4,000	
売掛金	20,000						20,000	
繰越商品	20,000		11,000	20,000			11,000	
備品	108,000						108,000	
資本金		200,000						200,000
繰越利益剰余金		30,000						30,000
売上		140,000				140,000		
仕入	66,000		20,000	11,000	75,000			
	370,000	370,000						
減価償却費			7,500		7,500			
備品減価償却累計額				7,500				7,500
当期純利益					57,500			57,500
			38,500	38,500	140,000	140,000	295,000	295,000

P 09 2-1 の残高試算表と同じ

2-4 財務諸表の作成

損益計算書

自 20X8年1月1日 至 20X8年12月31日

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	75,000	売上	140,000
減価償却費	7,500		
当期純利益	57,500		
	140,000		140,000

貸借対照表

20X8年12月31日現在

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	152,000	備品減価償却累計額	7,500
当座預金	4,000	資本金	200,000
売掛金	20,000	繰越利益剰余金	30,000
商品	11,000	当期純利益	57,500
備品	108,000		
	295,000		295,000

損益計算書

売上高	140,000
売上原価	
期首商品棚卸高	20,000
当期仕入高	66,000
合計	86,000
期末商品棚卸高	11,000
売上総利益	75,000
販売費及び一般管理費	
減価償却費	7,500
営業利益	57,500

貸借対照表

現金	152,000	減価償却累計額	7,500
当座預金	4,000	資本金	200,000
売掛金	20,000	繰越利益剰余金	87,500
商品	11,000		
備品	108,000		
	295,000		295,000

減価償却累計額は、B/Sの借方に記載する方法もあるんだよ。



貸借対照表

備品	108,000	
減価償却累計額	7,500	100,500

### 3. 勘定口座の締切り

#### 3-1 収益・費用の各勘定口座の締切り

まず、決算整理仕訳を転記し、各勘定口座の金額を「損益勘定」に振り替えます。その後で、各勘定口座を締切ります。

(決算整理仕訳)

(借方) 仕入	20,000	(貸方) 繰越商品	20,000
(借方) 繰越商品	11,000	(貸方) 仕入	11,000

(借方) 減価償却費	7,500	(貸方) 備品減価償却累計額	7,500
------------	-------	----------------	-------

仕入		売上	
3/9 当座預金	66,000	12/31 繰越商品	11,000
12/31 繰越商品	20,000	12/31 損益	75,000
	<u>86,000</u>		<u>86,000</u>
減価償却費		12/31 損益	
12/31 備品減価償却累計額	7,500		7,500
	<u>7,500</u>		<u>7,500</u>
		12/31 損益	140,000
			<u>140,000</u>
		5/3 現金	100,000
		7/6 当座預金	20,000
		10/22 売掛金	20,000
			<u>140,000</u>
		損益	
		12/31 仕入	75,000
		12/31 売上	140,000
		12/31 減価償却費	7,500

(決算振替仕訳)

--	--	--	--

(決算振替仕訳)

--	--	--	--

#### 3-2 損益勘定と繰越利益剰余金勘定の締切り

損益勘定の貸借差額は、当期純利益（又は当期純損失）です。その金額だけ純資産が増加（又は減少）したことになります。そこで、損益勘定の貸借差額を繰越利益剰余金勘定に振り替え、その後で両勘定を締切ります。

損益		繰越利益剰余金	
12/31 仕入	75,000	12/31 次期繰越	87,500
12/31 減価償却費	7,500	1/1 前期繰越	30,000
12/31 繰越利益剰余金	57,500	12/31 損益	57,500
	<u>140,000</u>		<u>87,500</u>
			<u>87,500</u>
			<u>140,000</u>

(決算振替仕訳)

--	--	--	--

**3-3 資産・負債・純資産の各勘定口座の締切り**

まず、決算整理仕訳を転記した上で、各勘定口座を締切ります。

(決算整理仕訳)

(借方) 仕入	20,000	(貸方) 繰越商品	20,000
(借方) 繰越商品	11,000	(貸方) 仕入	11,000
(借方) 減価償却費	7,500	(貸方) 備品減価償却累計額	7,500

**現金**

1/1 前期繰越	210,000	1/9 当座預金	150,000
5/3 売上	100,000	8/10 備品	8,000
		12/31 次期繰越	152,000
	310,000		310,000

**当座預金**

1/9 現金	150,000	3/9 仕入	66,000
5/3 売上	20,000	8/10 備品	100,000
		12/31 次期繰越	4,000
	170,000		170,000

**売掛金**

10/22 売上	20,000	12/31 次期繰越	20,000
	20,000		20,000

**繰越商品**

1/1 前期繰越	20,000	12/31 仕入	20,000
12/31 仕入	11,000	12/31 次期繰越	11,000
	31,000		31,000

**備品**

8/10 諸口	108,000	12/31 次期繰越	108,000
	108,000		108,000

**備品減価償却累計額**

12/31 次期繰越	7,500	12/31 減価償却費	7,500
	7,500		7,500

**資本金**

12/31 次期繰越	200,000	1/1 前期繰越	200,000
	200,000		200,000

資産・負債・純資産の各勘定の「次期繰越」の金額を集計して、「繰越試算表」を作成します。

**繰越試算表**

借方	勘定科目	貸方
152,000	現金	
4,000	当座預金	
20,000	売掛金	
11,000	繰越商品	
108,000	備品	
	備品減価償却累計額	7,500
	資本金	200,000
	繰越利益剰余金	87,500
295,000		295,000